

## 第3章 面接試験の準備と実際

### (1) 面接試験を受けるまで

#### ① 面接試験とは

面接試験の実施状況や内容の説明の前に、面接試験とはどういうものか、また何が面接試験において大切なのか、そして「受験」という大きな試練のなかで面接試験がどう位置づけられ、それにどう対処しなければならないか、といったことについて略述しておく。

まず第一に、面接試験においては、入学・入社への意欲が大切である。該当の大学（短大・専門学校）や企業へ入学・入社したいということが真剣に、真面目に、意欲的に面接官に伝わらなければならない。そのために最も大切なことは、自分の行きたい（進学・入社したい）学校なり、会社のことを徹底的に調べ、ここなら自分が入学して何を学びたいかということを確認することである。この大学なら自分に適当だろうとかいった安直な進路先の決定では、決してよい入学・入社への意欲はでてこない。面接試験とは、その面接の直前に練習すればいいのではなく、自分の進路先の目標決定のときからすでに始まっているのである。

第二に、入社試験・採用試験・入学試験のいずれにおいても、面接試験は、総合的な試験の一環として実施されるということである。したがって、受験する会社、学校において面接試験の比重に大小はあるが、面接試験によって100パーセント合格が決定してしまうということはない。テストや小論文や調査書などが加味されて、合格は総合的に判断される。しかし、注意しなければならないのは、逆の場合は多々あるということである。つまり、テストや小論文や調査書についてはまあまあ十分なのに、面接試験において大失敗して、それが原因で不合格になることはよくある。この為、面接のウエイトが大きい就職試験では、特に重要である。面接試験では、最低限として、大きなミスや失敗のないように心がけなければならない。

第三に、面接試験においてはごまかしはきかないということ。その場かぎりの、また付け焼き刃的な礼儀は通用しないということ。面接官は、何十人、何百人の高校生を面接等で観察している。したがって急いで身につけた礼儀作法・話し方なのか、基本的な生活習慣として身につけている礼儀作法、話し方なのかはすぐ分かってしまう。極端な言い方をすれば、面接試験では、十数年間生きてきた人間の形成課程がテストされているといえるであろう。大切なのは、面接試験に対応するために、その場しのぎ的に礼儀正しくするとか、話し方を覚えるとかいったことではなく、日頃の日常生活において、正しい基本的な生活習慣、礼儀、話し方を身につけておくということである。そして、決して礼儀とか話し方にとどまることではなく、服装であるとか、時間厳守であるとか、規律・約束に対する考え方であるとかいった総合的な人間形成が大切なのである。

#### ② 面接試験の実施状況と内容

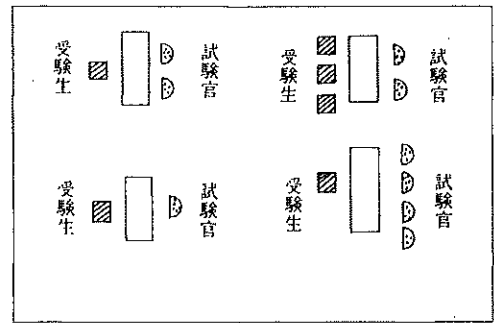
##### 1. 面接試験の実施状況

面接試験は、一般の民間企業への就職試験、公務員の採用試験では、ほぼ100パーセント実施されている。また各種専門学校では、学科試験と併せて実施され、看護系の専門学校においても比較的大きなウエイトで実施されている。近年とくに増加傾向にある、大学・短大の推薦入試の場合も、面接試験をうけなければならないが、逆にいえば、大学・短大の一般入試以外のすべての試験の中に面接試験が何らかの形で組み入れられていると考えていいだろう。

〈面接の形式〉

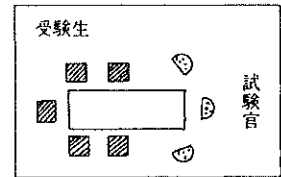
(a) 個人面接……全体の90%

受験生1名に対して試験官1名の場合や、受験生1名に対し試験官2名の場合が一般的だが、受験生2名に対し試験官3名などさまざまな形式もある。基本的には受験生個々に対する質問により成り立つ。



(b) 集団面接・フリートーキング

受験生4～5名に対し、複数の試験官がつく形式で、受験生同士の討論や話し合いを観察して評価する。



2. 面接試験での質問内容

受験する学校や企業に関する事項

- ・本学・本企業の志望理由、動機
- ・学部・学科を選んだ理由、抱負
- ・入学後やりたいクラブ・サークル
- ・将来の希望・抱負 ・併願の有無
- ・どの位の期間勤めていきたいか (就職)
- ・この企業の業務内容と、希望職種 (就職)
- ・これまでに入社した先輩について (就職)

〈留意する点〉

志望の動機・理由は必ず聞かれる重要な質問。あやふやであったり、答えられないことのないよう、あらかじめまとめておくこと。

受験生自身に関する事項

- ・性格、長所、短所 (自己PRをして下さい)
- ・特技、趣味、資格など
- ・身体状況
- ・友人について
- ・保護者の職業

これらの質問は、応答の態度、説明の仕方もよく観察される。明瞭に答えられるように。

高校生活に関する事項

- ・高校生活で心に残ったこと
- ・部活動、生徒会活動
- ・欠席、遅刻の回数とその理由
- ・得意、不得意科目とその理由
- ・校長の氏名、担任の氏名
- ・校風や学校の特徴

調査書の内容の確認の意味もあるので、その内容と矛盾しないように覚えること。(欠席・遅刻・評価の確認をしておく。)

一般常識・時事問題その他に関する事項

- ・最近の政治、経済、社会問題
- ・時事用語、外来語、略語の意味
- ・最近読んだ本

ふだんから新聞の政治・社会・経済欄にも目をおし、テレビのニュースにも気をつける。また、文学書もそれなりに読んでおこう。志望に関連した時事問題の質問にも十分注意する。

### ③ 面接試験のマナー

面接試験では応答の内容と同時に、身だしなみやマナーの良し悪しも大事な評価のひとつである。とりわけ就職試験での面接を占める割合は大きい。面接は人物評価の最もはっきりする機会である。各大学・短大・専門学校・企業の面接の試験官は長い人生経験と社会活動により、わずかな時間の会話や態度で受験生の性格を見抜いてしまうものである。

#### 1. 面接試験にのぞむ上で注意すべき点

- ・身なり、服装をチェックしよう

男女とも自然の髪であること、男子は伸びすぎ、極端な長髪にしないこと。女子は眼や顔にかかって、喋るたびに髪をかきあげたりすることがないように。リップクリーム、ネックレス、マニキュアなどは厳禁である。清潔な服装、制服をきちんと身につける。

- ・試験当日は、開始30分前までに着き、心を安めよう。

#### 2. 面接試験はどう評価されるか

評価の観点は、学校や企業によって多少の違いはあり、評価方法も、学校や企業により異なる。例として下の面接チェック表を参考にしてみよう。

面接チェック表

項目	観 察 点	評 価		
		A	B	C
学 習 意 欲	進学(就職)に対して、正しい目的意識や意欲・抱負をもっているか。			
人 間 性	志望する分野に合った資質・適性・豊かな人間性を備えているか。			
身だしなみ	頭髪や服装などはきちんとしているか。			
態度・動作	姿勢、態度、動作、目線の位置に問題はないか。			
言葉づかい	はっきりと話せ、正しいことばづかいができるか。			
表 現 力	自分の意見をもち、明確に表現できるか。			
理 解 力	人の言うことを正しく早く理解し、判断できるか。			
高 校 生 活	高校生活を充実して送ってきた人物であるか。			
一 般 教 養	読書、ニュースへの興味、関心を含めて、高校卒業にふさわしい知識、教養をもっているか。			
		総合評価		

◎総合的所見

### 3. 面接会場でのマナー

a 控え室…静かに、かつリラックスを。(面接は控え室で順番を待っている時から始まっている)

b 面接試験室への入室

・自分の名前を呼ばれたら元気よく「はい！」と答える。



・面接試験室に入る時は、ドアが閉まっている時も、また開いていても軽く2度ノックする。



・室内から「どうぞ」「はい」と声があったら、静かにドアをあける。(返事がない時はもう一度ノックして、少し間をあけて入室する)(ノックはしなくてもよいという指示のある場合は、直ちに入室してもよい)



・ドアが開き戸、引き戸、いずれにかかわらず、どちらもドアの取手の反対側の手で(回して)あける。



・室内に入ったらドアに向かって立ち、反対の手にもちかえて閉める。その時、片方の手もそえて、両手で閉めるとよい。(試験官に対して後ろ向きになっても失礼にはならない)



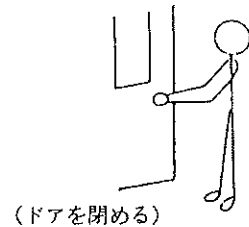
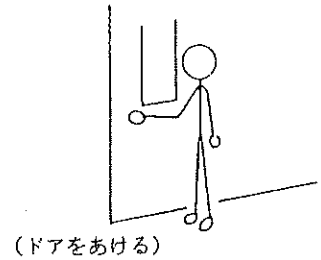
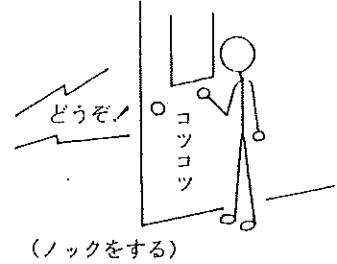
・ドアを閉めたら、その場で試験官の方へ向きなおし、軽く会釈し、頭を15°傾げる(実際には腰を折って頭一つ分だけ前に倒す深さ)。首だけを曲げないこと。頭を下げる時間は1呼吸ぐらい。



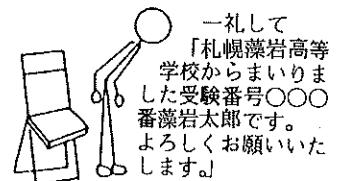
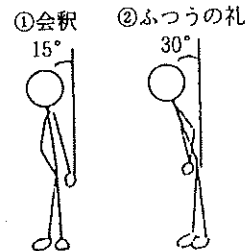
・「失礼いたします」と言って受験生用の椅子の場所に静かに進む。椅子の右、左どちらに立ってもかまわないが、通常は左に立って、きちんとした姿勢であらためて試験官に礼をする。(この時は、入り口での礼よりやや深く、頭を30°下げた状態)



・もとの「気をつけ」の姿勢にもどしてから、学校名、受験番号、名前をはっきりと大きな声で名のる。

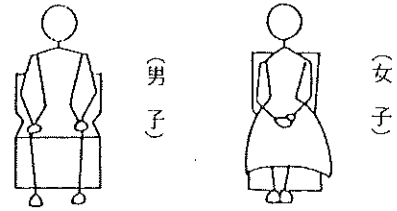


(おじぎの仕方)



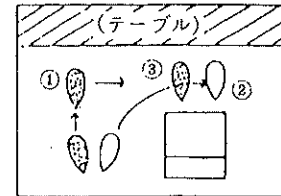
- ・「どうぞ」「おかけなさい」の指示によって、「失礼します」と返事をして着席する。
- ・椅子には深く腰かける。(浅いと横柄に見られやすい)
- ・両足は正面に向けてそろえる。
- ・視線は、中央(複数の時)の面接官のアゴ、もしくはネクタイの結び目あたりに置いて、質問に対しては、面接官の目を見て応答する。

(椅子に腰かけた姿勢)



※ 椅子にかける時の動作として、右図のように足をはこぼう。

- ・男子は軽く拳をにぎり、両手を太股に置く、膝と膝の間は拳1つが限度
- ・女子は膝を閉じ、両手は軽く太股の上に重ねて置く



(椅子に着席するときの足の運び方)

#### 4. 面接が終わった時のマナーは?

- ・質問が終わって、「はい結構です」とか「御苦労様でした」といわれたら、椅子に腰かけた時と逆の順序の動作で椅子の横に立ち、「どうもありがとうございました」とか「失礼します」などのあいさつをしてもよい。(入室の時に椅子が机の中に入っていた時は同じように椅子をもとに戻す)



- ・入口の手前で向き直り、入室と同じ位置で姿勢をただして一礼し、軽く会釈をして、「失礼いたしました」、「失礼します」とあいさつして、入室と同じ要領でドアをあけて退室する。(退室はいそがないこと)

### 面接試験の応答の要領

#### 1. 明確な言葉落ちついて元気に話す

質問に対しては明るくハキハキと。

わからない時も「その点についてはよく分かりません」と答え、あいまいな返答や知ったかぶりは避けよう。また自分の考えをわかりやすい言葉で正確に伝えるように心がけること。

また聞かれてもないのにベラベラ喋り過ぎないこと。また語尾をはっきりすること。早口にならないように。(普段より、ゆっくりめで話す。)

#### 2. 相手を見て話す

話す時も聞く時も相手の目を見て応答すること。長い話の時には、相手の口もとか、えりもとのあたりを見るとよい。

#### 3. 悪い癖を直す

舌をぺろっと出す。貧乏ゆすり、椅子の上の尻が落ちつかない、目をキョロキョロさせる、天井を仰ぐ、あらぬ方を見る、足をブラブラさせる、髪をかきあげる等の癖は早く直そう。

#### 4. 言葉づかいに注意

流行語や友達どうして使う略語は禁物。

「それでー」「ですからー」というように語尾を引っぱらない。

「えーと」をしきりにはさまないように。

「です・ます」のていねい語を使うこと。(ex「スポーツはテニスを少々やります」「…と思います」)

人を指すことばに注意しよう。

- ・自分のこと…「わたし」または「わたくし」を使う。「ぼく」「おれ」は禁物
- ・両親、家族、親戚などは、「父」「母」「兄」…「叔父」等（パパ、ママは論外）
- ・目上の人には「先生」「さま」等をつける→校長名、担任名を聞かれることが多い
- ・「れる」「られる」をつけるか、「お（ご）…になる」の形を用いる
- ・「先生が話される」「もどられる」
- ・「お話になる」、「ご覧になる」＝尊敬語
- ・「お（ご）…する」「お（ご）…いたす」の形を用いる  
（「ご連絡いたします」）＝謙譲語
- ・特別な動詞については、その尊敬語、謙譲語を用いよう。

ふつうの言葉	尊敬語（相手方に用いる）	謙譲語（自分方に用いる）
行く・来る	いらっしゃる・おいでになる	まいる・うかがう
言う	おっしゃる	申す・申しあげる
いる	いらっしゃる	おる
する	なさる	いたす
食べる	あがる・めしあがる	いただく
見る	ご覧になる	拝見する
与える	くださる	あげる・差しあげる
聞く	（特になし）	うかがう・うけたまわる